

はなぞの

# ファミサポ・レター

令和3年3月 第3号

## コロナ禍でつなぐ家族の絆

はなぞのファミリーサポート・レター第3号です！コロナ禍により、私たちの生活は一変しました。ありふれた日常が失われたこんな時だからこそしっかり繋がっていたいのが家族。改まってはなかなか言えない家族への思いを、今回は患者さんに語っていただきました。



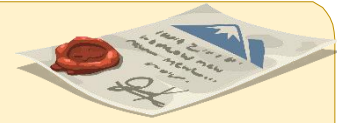
## お母さんへ (原文ママ)

ぼくを生んでくれてありがとう。いつも面会の時服をもってきてくれたり、食べ物をもってきてくれてありがとう。いつも面どうをかけることをたのんでごめんね、話し相手になってくれてありがとう。12月のたん生日にはおめでとうのれんらくを入れます。これからも一週間に一回の電話はします。これからも、手をかける息子ですが、よろしくおねがいたします。

(入院・男性)



## 家族への思い (原文ママ)



父がアルコール依存症で苦勞したので、自分は同じようにはなるまいと思っていた。しかし仕事の重圧から段々酒の量が増え、同じ病気になってしまった。気がついたら病院に入院していたこともある。入院中は弟が面会に来てくれてうれしかった。娘はまだ幼く、親の離婚や病気で苦勞をかけた。娘自身どうなるかと心配したこともあったが、就職した時には給料からこずかいをくれるまで成長してくれて、感謝している。病気になってから30年あまり、自分も家族も色々あったが、なんとか日々暮していけたらと思っている。

(外来・男性)

## 家族への思いあれこれ



入院・女性

- Q. 家族との一番の思い出  
A. 孫を抱っこしたとき。あまりにふにやふにやで生まれたての息子を抱っこした時のことを思い出した。



入院・男性

- Q. 家族に感謝したいこと  
A. 父親が42歳で亡くなり、母親が女手一つで姉と僕を育ててくれた。母親は仕事中の事故で右手の指を切断してしまっても工場の仕事で僕たちを支えてくれていた。姉は大学進学する予定だったが、高校卒業後から家族のために働いてくれていた。



▶ 《予告》 ご家族からの投稿を掲載する予定です。

はなぞのファミリーサポート・チーム

心理室 岡村, 相談室 宗本, OT室 角田・平田, デイケア 上村